

第11回 霞ヶ浦の自然（底生動物、貝類・魚類、鳥類）

1 霞ヶ浦の底生動物

海や湖、河川の底に棲む動物を底生動物と呼びます。

霞ヶ浦の代表的な底生動物は、図1に示すように昆虫類のアカムシユスリカやオオユスリカの幼虫、貧毛類のユリミミズ、エラミミズ（どちらもイトミミズの仲間）などで、湖のほぼ全域に分布しています。これらの動物は魚類のエサとして重要であるとともに、底泥にある有機物の分解にも重要な役割を果たしています。

（1）アカムシユスリカ

アカムシユスリカは、霞ヶ浦全域に分布しているユスリカで、10～11月にかけて羽化し卵を生みます。卵は水の中に沈み、かえった幼虫は冬の間成長し、夏は泥の底に潜って夏眠します。秋になると泥の表面近くに出てきて蛹になり、水面まで上って行って成虫になります。

（2）ユリミミズ

ユリミミズは、霞ヶ浦全域に分布しているイトミミズの仲間です。全体的に赤色で、体長は約100mm、幅1mmくらいの糸状の形状をしています。



図1 霞ヶ浦の底生動物

出展 「国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所」HP（自然百科事典）
(https://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi_index024.html)

2 霞ヶ浦の貝類・魚類等

霞ヶ浦の魚介類としては、図2に示すように、貝類や甲殻類（テナガエビ等）、魚類（ワカサギ、シラウオ、コイ等）が知られています。また現在は、外来生物であるチャネルキャットフィッシュ等も増えています。魚類については、淡水魚、汽水魚、海水魚と多くの種類にわたり、淡水魚としては約40種が確認されています。

(1) 貝類

これまで、カラスガイ、イシガイ、ヤマトシジミ（汽水性）、マシジミ（淡水性）などが生息していたことが確認されています。ヤマトシジミは、常陸利根川で採れていましたが、霞ヶ浦に生息していたのは下流の拡幅工事によって海水の逆流が多くなった時期から常陸川水門閉鎖後しばらくの間の期間で、現在は見られません。

(2) テナガエビ

代表的な淡水性のエビの仲間で、湖内や河川に生息し、霞ヶ浦の漁獲量では上位に位置しています。夏に産卵された卵はメスの腹部に保護されています。ふ化後の幼生はゾエアとよばれ、エビと全く違った形をしています。約1ヶ月後にエビの形になり、水底に沈んだプランクトンの死骸などを食べて成長し、1～2年の寿命で、体長は約10cm程度になります。

(3) ワカサギ

霞ヶ浦を代表する魚ですが、もともと海あるいは汽水域に棲むものが陸封化（海に出ず生涯を湖で過す）したものといわれています。冬の寒い時期に水底の砂地に産卵し、ふ化後しばらくは湖岸近くに留まり、やがて沖合にでます。動物プランクトンやイサザアミ、ユスリカの蛹等を食べて成長し、概ね1年で寿命を迎えます。

(4) シラウオ

動物プランクトンを主食として成長し、概ね1年で寿命を迎えます。2～5月に湖岸の砂地に産卵します。もともと汽水性の魚といわれていますが、淡水に順応し、水門閉鎖後も生息を続けています。

(5) コイ

雑食性で、貝類やイトミミズ、水草などを食べ、1年で約20～30cm、2年で約50cm、3年程度で成熟します。古くから食用魚として珍重され、霞ヶ浦では養殖もおこなわれており、鯉こくやあらい、うま煮などとして食されています。

(6) チャネルキャットフィッシュ

北アメリカ原産の魚で、霞ヶ浦では昭和56（1981）年に初めて確認され、その後、平成12（2000）年頃から増加しました。5～7月頃湖岸付近の岩棚や窪地に産卵し、産卵後はオスが卵を護ります。背びれや胸びれに大きなトゲをもっており、3年で約20cm程度までになります。雑食性で、成長するにつれて魚食性が強くなり、大きくなるとテナガエビやハゼ科魚類など水底に棲む生物を食べて成長します。

貝類	 <p>カラスガイ</p>	 <p>イシガイ</p>	 <p>ヤマトシジミ (霞ヶ浦で現在は生息が確認されていない)</p>
甲殻類	 <p>テナガエビ</p>	 <p>イサザアミ</p>	 <p>モクズガニ</p>
魚類	 <p>ワカサギ</p>	 <p>シラウオ</p>	 <p>コイ</p>
魚類 (外来生物)	 <p>チャネルキャットフィッシュ</p>	 <p>オオクチバス</p>	 <p>ブルーギル</p>

図2 霞ヶ浦の魚介類

出展 「国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所」HP (自然百科事典)

(https://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi_index024.html)

甲殻類 (モクズガニ) については、「茨城県水産試験場内水面支場」HP (いばらき魚顔帳)

(https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/naisuishi/gyoganchou/documents/085_mokuzugani.pdf)

魚類 (外来生物) については、「環境省 自然環境局 HP (特定外来生物等一覧)」

(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>)

3 霞ヶ浦の鳥類

霞ヶ浦周辺には多くの鳥類が出現します。冬の野鳥だけで5万羽、夏の渡り鳥を入れると10万羽以上の野鳥が飛来し、一定期間滞在する野鳥の宝庫といわれています。図3に示すようにガンカモ科、カイツブリ科、サギ科、カモメ科などが確認されています。その中でも多いのがカモ類で、マガモ、コガモなどが多くなっています。令和4（2022）年に実施された環境省のガンカモ類生息調査によりますと、約20種、95千羽が確認されています。

ガンカモ科	 マガモ	 コガモ
カイツブリ科	 カイツブリ	 カンムリカイツブリ
サギ科	 コサギ	 ヨシゴイ
カモメ科	 ユリカモメ	 コアジサシ

図3 霞ヶ浦の鳥類

出展 「国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所」HP（自然百科事典）
(https://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi_index024.html)